平成２３年１０月２９日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第１４３委員会
委員長　平尾 雅彦

プロセスシステム工学第１４３委員会
第１８４回委員会・平成２３年度第４回研究会 開催通知
（１４３委員会ホームページ　http://www.pse143.org/）

１．日　時：２０１１年１２月９日（金）　　１３：００～１７：００　委員会・研究会
　　１７：３０～２０：００　懇親会（於：百代茶屋）

２．場　所：キャンパス・イノベーションセンター（CIC）東京 国際会議室
（東京都港区芝浦３－３－６／電話：03-5440-9020）
（交通：JR 田町駅 より徒歩１ 分）
http://www.cictokyo.jp/access.html

３．委員会：(13:00～13:10)

４．研究会：(13:10～17:00)

13:10～13:20　2011 AIChE Annual Meeting 報告

テーマ：化学プロセスにおける省エネルギー

13:20～14:20 「化学プロセスにおける分離膜を用いた省エネルギー」
早稲田大学　松方正彦 先生
＜概要＞　化学産業のエネルギー消費のうち約 40%は蒸留分離による．分離膜を用いると分離プロセスを大規模に省エネできる可能性がある．講演では，膜分離プロセスの導入による省エネルギー技術，および，反応装置と膜分離装置を１つの単位操作に統合した膜反応器，に関する演者らの最近の研究について紹介する．

14:20～15:20 「プロセスインテグレーションによる蒸留技術の省エネルギー化」
山形大学　松田 圭悟 先生
＜概要＞　連続蒸留は，シンプルに高い精度の分離を達成できることから，化学プロセスにおいて多用されているが，エネルギー多消費型プロセスである。ここでは，プロセスインテグレーションにより蒸留塔の省エネルギー化をはかっているヒートインテグレーション，ヒートポンプ，反応蒸留などについて紹介する．

15:20～15:30 休憩

15:30～16:30 「プロセスインテグレーションによる省エネルギー」
プロセスインテグレーション株式会社　平田 賢太郎 氏

＜概要＞　第一次石油危機以来、多くのプロセス工業で省エネルギー検討が行われてきた。１９９０年以降はとりわけピンチテクノロジーが適用されてきたが、省エネルギーの対象である既設プラントの解析においては、大きな投資を伴う案件の創出が主体で、結局は実行されない場合も存在した。一方、英国マンチェスター大学のプロセスインテグレーションセンターと Process Integration Limited (PIL) は、既設プラントの改造問題に適用し得るプロセスインテグレーション技術を開発してきた。本報告では、このプロセスインテグレーション技術を原油予熱系及びエチレンプラントに適用した結果を紹介する.

16:30～17:00 総合討論

＜追記＞
準備の都合がありますので，出欠を１１月１８日（金）までに下記宛てにご回答下さい.
懇親会の会費は５千円を予定しています.

東京大学大学院 工学研究科 化学システム工学専攻
菊池 康紀（E-mail：admin@pse143.org）

プロセスシステム工学第１４３委員会
第１８４回委員会・平成２３年度第４回研究会
出欠連絡用紙

１１月１８日（金）までに電子メールまたはＦＡＸにてご回答下さい。
恐れ入りますが、欠席の場合も御連絡下さい。

＜宛先＞
東京大学大学院　工学系研究科　化学システム工学専攻
　　菊池 康紀（E-mail：admin@pse143.org FAX：03-5841-6876）

	出　席	欠　席
委員会		
研究会		
懇親会		
幹事会（幹事のみ）		

会社・大学名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

委員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（代理）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

なお、出席予定の大学側委員で旅費の支給が今回不要な委員は次の欄に○印をお付け下さい。

今回は旅費の支給が不要　［　　］

変更事項がございましたらご記入下さい。

郵便番号＿＿＿＿＿＿＿＿

勤務先住所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

会社（大学名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

部署＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

委員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号（　　）　　－　　FAX 番号（　　）　　－

E-mail（公開される方のみ）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡欄：講師の推薦やコメントがございましたらご自由にお書きください。